平成16年1月1日　第1371号　発行：湯沢町役場総務課

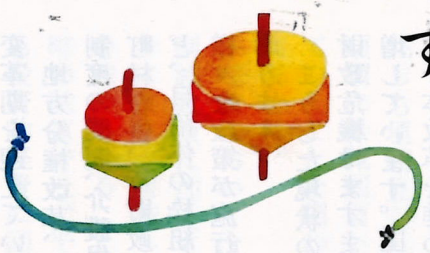
広報ゆざわ

湯沢町町民憲章

わたしたちのねがい

美しい自然につつまれた雪のまち湯沢
清らかな愛情あふれるまち
すこやかな活力みなぎるまち
さわやかな誰もが訪れたいまち
みんなで力をあわせ
豊かで明るく住みよい
文化の香り高いまちをつくりましょう

あけまして
おめでとうございます
新春を迎え
皆様のご多幸を
お祈り申し上げます
平成十六年元旦



「お正月には凧あげて、こまをまわして遊びましょう」は、明治時代の唱歌「お正月」（東くめ作詞・滝廉太郎作曲）の一節。こま（独楽）は鉄製の心棒をさした逆円錐形の木製玩具で、巻いた紐で回転させます。大きな独楽を回すのは、男の子が楽しむ正月の遊びでした。

独楽はコマツブリの略で、ツブリは円いものを意味するツブラと同系の語です。コマは高麗（古代朝鮮の国名）から渡来したためとされています。「独楽」と書くのは「ひとり楽しむ」という意味の漢語を当てたものでした。

「べいごま」は「ばいごま」が変化した言葉。江戸時代前期から、巻き貝の一種「バイ（貝・海螺）」の殻を切り、重くするために鉛を詰めた独楽が作られました。鉛のほかにろうを入れることも行われています。

たらいや空き箱の上に、ござを敷いてへこみをつくり、紐を巻いて回す「べいごま」は、強くぶつけ合って優劣を競う遊び。のちには、貝を使わず、形が似た鋳物製のものがおもちゃ屋で売られるようになりました。

このお正月には、家族で昔のおもちゃで遊んでみてはいかがですか。

新年のごあいさつ

湯沢町長　村山　隆征



明けましておめでとうございます。新春を迎え、町民の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますと共に、日頃からの町政全般にわたり、暖かいご支援とご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

日本経済は、依然低迷が続いており、回復への道のりは容易に見えない状況にあります。政府は、構造改革を推進し、一日も早く経済の再生を念願するところであります。

地方経済は窮状にあります。景気低迷に加え、観光を基幹産業とする当町にとって、観光客の減少は、憂慮いたしております。

21世紀は知恵の時代と言われています。当町には様々な分野で恵まれた資源があり、これらの資源を再認識し、各方面から見つめ直し、魅力ある部分を掘り起こしをし、誰もが訪れてくれるような、新たな「まちづくり」に向けて、町民・企業・行政が一体となって取り組んでいくことが重要であります。

湯沢町は、平成16年度には、町民総参加による「観光立町宣言」して、実践していきたいと思います。この宣言のために、湯沢町観光立町宣言推進会議を設置し、施策の検討を進めているところであります。

町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

町民の医療施設の充実を図るために、平成14年8月に湯沢町保健医療センター（町立湯沢病院）を開設し、現在、管理運営を委託しました(社)地域医療振興協会の医師をはじめ、職員の皆さんが地域医療に積極的に取り組んでおり、順調に運営がなされています。

今後とも、保健医療センターを核として、保健・医療・福祉・介護の一体化を更に進め、町民の健康増進と医療の提供及び充実に向けて努力してまいりたいと思います。

国際姉妹都市を目指して、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレイク郡マグナと交流することと決定いたしました。

国際交流は、湯沢町として初めての試みであり、今後の進め方としては、今年の夏には、湯沢中学校の生徒を短期ホームステイに派遣し、又、マグナからも来町いただいて、相互に交流を図り、異文化交流の理解が深まった段階で姉妹都市提携を実現したいと考えております。

少子高齢化社会の到来と情報化の進展、住民の意識と価値観の多様化など、社会が急速に変化する中で、地方自治をめぐる情勢はめまぐるしい変革期を迎えています。

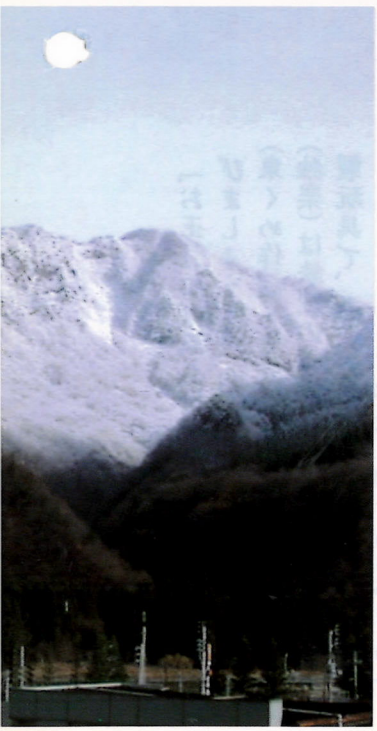
地方分権改革、医療や年金制度の問題、介護保険制度、市町村合併、行財政制度改革など、自治体の枠組みを変える様々な政策が施行推進されております。

こうした現状の中で、地方財政危機はますます厳しさを増しています。国は早期に三位一体改革を進めて地域に密着した市町村に、十分な財源を移譲することが急務であります。

このような中で、町においては、厳しい財政状況下にありますが、これまでの行政サービスを維持していくために、経常的経費の節減を図り、行政運営の効率化に努め、引き続き下水道の布設、道路改良等生活の環境整備、教育の振興など、住民福祉の向上に邁進いたし、自立した町づくりに取り組んでまいります。町民の一層のご協力をお願いいたします。

一方、社会が希薄化し、殺人や強盗など凶悪事件が増加し、中でも青少年の犯罪が多発しており、誠に残念であります。関係機関や地域が連帯感を深め自主防犯意識を高め、協力し合っていくことが大事かと思います。

平和で安全な社会を願い、明るい希望に満ちた年になりますようご祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭のごあいさつ

湯沢町議会議長　髙野　榮司



新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、4月に町議会議員選挙が行われ、定数を4人削減したなかで、新人議員4人を含む新たな16人が決まりました。その後、議会の活性化や議会運営の合理化に向けて活発な活動を展開してきております。些細なことですが、その一環としてパソコン操作の勉強会にも取り組みました。

11月には衆議院議員総選挙が行われ、ご承知のような結果となっております。

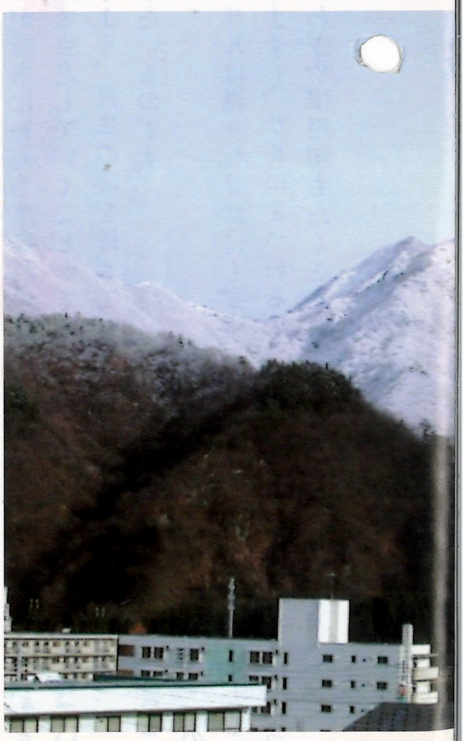
スポーツ界では、阪神タイガースの18年ぶりリーグ優勝や松井選手のアメリカでの活躍、また水泳の北島選手が世界水泳選手権で100m及び200m平泳ぎで世界新記録を樹立し優勝するなど明るい話題がありました。特にサッカーでは地元アルビレックス新潟がJ2リーグで見事優勝し、念願のJ1リーグ昇格を果たすことができ、新潟県民の1人として大変喜んでおります。

一方、社会に目を向ければ、若者による家族の殺傷事件に見られる、人間の命を何とも思わないような犯罪が多発するなど、憂慮すべきニュースも多かったように感じているところであります。

3月20日に始まったイラク戦争は、4月に首都バクダットの陥落により、フセイン政権は事実上崩壊しました。しかしその後、8ヶ月経った今も戦闘状況が続いており、ついに日本人外交官が犠牲者となってしまいました。今までの経過からこの戦争の泥沼化、長期化が懸念されるところであります。

小泉首相は、自衛隊のイラク派遣を明言しており、その日程が現実のものとして迫ってきております。国際平和の活動や地域紛争に対して日本がどのような役割を果たすことができるのか、日本国内はもちろん世界の多くの国々が注目する中での決断となります。このことはまた、戦後日本における歴史の一大転換点となることは間違いありません。

日本の経済は、依然としてしかし最近の統計指標、あるいは主要銀行の中間期決算数値などからは、不況回復への兆しも垣間見られ、これらが順調に景気回復へとつながっていくことを願わずにはおられません。



町政においては、国の歳出削減政策に加えて、町税の減少により一層厳しい財政運営を強いられることになります。町の試算では、平成16年度から投資的経費に回す財源が不足するとの予測がなされており、今後は数多くの行政課題の中から何を優先して実施するのか、より具体的・合理的な判断が必要になってまいります。

このような現状ではありますが、議会といたしましても、町執行部とともに行政改革を進め、行財政の効率化を図りながら、湯沢町が町民にとって本当に住みよい町になりますよう全力をつくしたいと思います。

また、ダム建設中止に伴う三俣地域の振興には、地元の方々のまとまりが必須条件と考えておりますが、振興策の具現化に向けて議会としても全力を傾注し、手をつくす所存であります。

最後になりましたが、国際交流の一環として、今年の夏には中学生をアメリカ合衆国のソルトレイク郡マグナに派遣する予定であります。異文化に接する良い機会と思いますので、中学生の皆さんは楽しみにしていてください。

これからも皆様の力強いご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、町議会を代表し、新春の挨拶といたします。

●町民新春年賀交歓会●

みなさんでともに新年をお祝いしましょう。
お誘い合わせのうえ、お気軽においでください。

【日時】
1月15日（木）午後6時～
（午後5時30分より受付）

【会場】
湯沢カルチャーセンターアリーナ
（立食パーティ形式）

【会費】
お一人様4，000円（当日ご持参ください。）

【申込】
（財）湯沢町都市施設公社　℡784－1511
（準備の都合上、1月8日（木）までにお申し込みください。）

【主催】
湯沢町商工会・湯沢町観光協会・（財）湯沢町都市施設公社



今年は申年

平成16年は、申年。

日本に生息しているのは「ニホンザル」。顔とおしりの赤い、おなじみのサルです。人間と同じ霊長類に属し、北は青森県下北半島から、南は鹿児島県屋久島まで生息しています。群れをつくり、木の上を得意とし、主に、果樹や種子、花、葉などの植物や昆虫を好んで食べるようです。

ところで近年、野生のニホンザルを見る機会が多くなりました。観光用に餌づけされたサルが人前に現れたり、里に出て、人間にえさをねだったり、農作物を荒らしたり…。人間をこわがらず、時には、人に襲いかかったりすることもあるようです。被害に遭っている地域では、いわゆる猿害対策が大きな課題になっています。日本人にとってなじみの深いサルですが、お互いが敵対し合うのは残念なことです。猿害の防止を図りつつ、サルが将来にわたって自然の状態で生息していくことができるよう、共生の道を探っていきたいものです。



サルは様々な昔話にも登場しますし、サルにまつわることわざや慣用句もたくさんあります。『さるかに合戦』ではサルは悪役でしたが、『桃太郎』や『西遊記』では、主人を支える名脇役として活躍しました。

ことわざで、だれもが知っているのは、「猿も木から落ちる」。これは、その道にすぐれている人でも、時には失敗することがあるということのたとえ。「木から落ちた猿」は、頼みにするものを失ってどうしてよいか分からない状態のことをいいます。木の上を得意とするサルならではのことわざです。

同じくサルの特徴をよくとらえたことわざといえば、「猿の尻笑い」。自分の尻の赤いことに気づかないで、ほかの猿の尻が赤いことを笑う意味で、自分の欠点に気がつかず、他人の欠点を笑うことのたとえです。そのほか、「サルまね」「サル知恵」「サル芝居」などの言葉がありますが、どれもあまりいい意味では使われていません。

そもそも「サル」＝「去る」というイメージがよくないのでしょうか。「去る」は「去る」でも、悪運だけは去っていってほしいものです。